



伝月僊筆三国志図屏風



◆**絵師の月僊**  
これは平成31年度に市民から寄贈されました。絵師の月僊は名古屋生まれの僧侶でありながら、江戸や京都で当時最先端の人物画の技法を学びました。特に円山応挙には多大な影響を受けつつ、江戸中期から後期にかけて、人気を博しました。

◆**三国志**  
題材は三国志の武将たちです。三国志とは中国の後漢時代末期から魏・呉・蜀の三国が並立する三国時代までであり、多くの群雄や武将が天下の覇権を握らんと躍動しました。江戸時代に中国からもたらされた羅貫中の『三国志演義』という時代小説は、庶民の間にも広まっています。さらに、「破竹の勢い」や「水魚の交わり」、「千里眼」、「泣いて馬謖を斬る」、「三顧の礼」など多くの三国志由来の言葉が日常生活でも使われており、三国志が庶民に親しまれていたことがわかります。

◆**この頃の日本**  
三国志の時代の日本は弥生時代であり、ちょうど邪馬台国があった時代です。邪馬台国の卑弥呼が使者を派遣したのが魏

◆**御伽草子「神代小町」**  
昨年度新たに市指定文化財になった「神代小町絵巻」は、これら小町物と呼ばれる能楽の演目や小町に関する伝説などをもとに作成された室町時代の御伽草子「神代小町」を絵巻物にしたものです。「神代小町」は他の御伽草子同様に作者は分かっていません。同じようなものが岡崎市の長瀬八幡宮にあり、野田八幡宮のものはこの長瀬八幡宮のものを写したものであると言われています。

◆**内容**  
平安時代中期の清和天皇の時代、小町という美しく和歌に秀でた遊女がおり、深草四位少将は小町のが好きになりました。小町は自分のことを諦めさせようと「私の下へ百夜通つたならば、あなたの言うことを聞きます」と言ったところ、少将は本当に毎晩小町の邸宅に通いますが、百日目の夜に思いを遂げられずに亡くなつてしまいました。そのせいで小町は少将の怨念に取りつかれ、物乞いになつてしまいます。小町は100歳を超え、逢坂（現在の滋賀県大津市）の関寺で人目をばはかるようにひっそり暮らしていました。ある時、藤原の中将が小町に歌の教えを受けよとの神のお告げを受け、関寺の小町を訪ねた中将は和歌の始まりなどについて教えを受けます。再び関寺を訪れた中将ですが、そこに小町の姿はありませんでした。その後、藤原実方が陸奥国玉造（現在の宮城県大崎市）を通りかかったとき、空から和歌の上の句が聞こえてきたので、下の句を吟じたところ、上の句を吟じる声は止まりました。実はその上の句は、小町の髑髏（死体）が吟じていたのです。実方は哀れに思い、小町のために聖観音を奉じて御堂を建て、小町をまつりました。髑髏が吟じるという不思議なことが起こつたのは、実は小町という人物がこの物語の中では大日如来の化身であったからという設定だからです。



市指定文化財

### 神代小町絵巻

(野田八幡宮蔵・歴史博物館寄託)

◆**当時の文化が分かる絵巻物**  
野田町の野田八幡宮に伝わる絵巻物です。絵巻物としては状態がよく、流麗な文体と色鮮やかな絵が特徴です。また衣装などから当時の風俗を知ることが出来ます。

◆**小野小町という人物**  
小野小町と言えば、皆さん何をイメージしますか。絶世の美女、百人一首に出てくる人、小野妹子の子孫などたくさん出てきます。

# 企 画 展 の ご 案 内

**企画展 ギャラリートーク**  
時 1月17日(日)、2月13日(土) 13時30分～14時  
場 企画展示室 講 当館学芸員

**初開催 歴史ひろばでギャラリートーク**  
刈谷の歴史をもっと深く知ることができる内容をお届けします。歴史ひろばをご覧になったことがある人もぜひご参加ください。  
時 1月17日(日) 11時 場 歴史ひろば (常設展示室)  
講 当館学芸員

**講演会**  
「尾張藩影の実力者、山下氏勝宛書状を読む」  
時 2月6日(土) 13時30分～15時  
場 講座室 講 当館学芸員 定 30人  
申 1月24日(日)までに、申込用紙(歴史博物館で配布・市HPでダウンロード可)を郵送、FAX(63-6108)または直接、歴史博物館(〒448-0838 逢妻町4-25-1)へ。  
※申込多数の場合は抽選とし、結果は全員に連絡します。

**収蔵品展～受け継がれた刈谷の名品～**  
時 1月16日(土)～2月14日(日)  
休館日 毎週月曜日、2月12日(金)  
場 歴史博物館企画展示室